

2. 報 告

田園公園化を目指した新しい愛東農業活性化への取り組み

木 村 太津男

愛東町には、建設省の事業で作った「道の駅」があり、それにあわせて構造改善事業で作った「あいとうマーガレットステーション」という農業の活性化拠点施設が昨年の10月15日に完成したばかりでございます。まだまだ実績が上がっているわけではありませんけれども、新しい愛東町の取り組みということで報告をさせていただきたいと思っております。

(1) 愛東町の概要

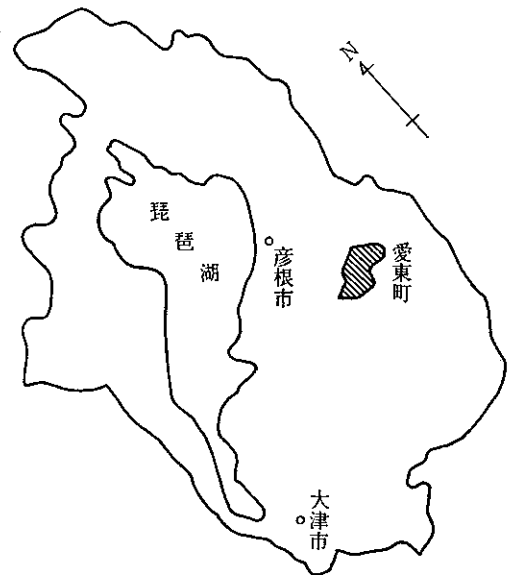
まず、愛東町の概要からお話をさせていただきたいと思います。

皆さんのお手元の資料の中に滋賀県の概略図(第1図)をつけておきましたけれども、滋賀県には真ん中に大きな琵琶湖がございます。愛東町は、湖東平野の最東端に位置しております。愛東町の南側には1級河川の愛知川が流れておりまして、それを境に人口4万人の八日市と接しておりますし、西と北につきましては湖東町という町に接しております。また、東には鈴鹿山脈が連なっており、面積40.89平方キロのうち57%が山林でございます。昨年の国勢調査によると、人口は6003人、世帯数が1466戸です。人口は昭和60年をピークに減少傾向にあるということでございますけれども、過疎といった、そういう減少ではなしに、ちょっと悲しいんですが、若い方が近隣の市、町へ若干流出しております。

ただ、平成12年に滋賀県に琵琶湖空港が

作られる計画でございます。それができますと、愛東町からちょうど20分ほど行ったところに琵琶湖空港ができますので、開発がかなり進んで、人口も増加するのではないかなというようなことを考えております。

交通条件でございますが、町のちょうど西側を国道307号線が縦断しておりまして、それと並行して名神高速道路も走っております。愛東町から4キロほど南に八日市インターというのがございまして、そこからは、京都まで約1時間、大阪まで1時間半、名古屋ですと2時間ぐらいで行けるという、非常に便利な条件のところに位置しております。最近では京都や大阪の方へかなりの方が通勤さ



第1図 滋賀県愛東町の位置

れているということで、通勤エリアも非常に広がっているというような状況でございますので、後ほど説明させていただきますが、兼業化が非常に進んできております。

(2) 愛東町の農業と農村の動向

愛東町の農業・農村の動向ですが、愛東町は古くから近江米の産地で、滋賀県では特に近江米ということになっていました。京都や大阪の寿司屋さんに、おいしい米だということでもかなり買っていただいております、近江米のブランドで非常に有名であったわけでございますけれども、最近は新潟魚沼とか、いろんなところからおいしい米が出ておりますので、近江米も中程度の米になってきているのではないかなと思っています。

愛東町は米が主となっている地域でございますけれども、昭和 45 年から始まりました生産調整のため、米にかわるべきものということで、麦なり、あるいは大豆、それから野菜などを振興しまして、水稻プラス麦、大豆、あるいは野菜といった形の複合経営や施設園芸とか果樹、特にブドウ、ナシ、そういうものを取り入れた集約型農業を今まで推進して産地化を進めてきたわけでございます。また、昭和 38 年に圃場整備事業が愛東町で初めて始まりました。本格的には昭和 45 年から始まったわけでございますが、平成元年に愛東町の圃場すべてが完了いたしました。それと並行いたしまして第 1 次あるいは第 2 次農業改善事業を取り入れまして、それぞれの集落に営農組合を作ってまいりました。これはオペレーター方式による機械利用組合ということで、大型機械化一貫作業体系によりまして、よりコストの低い農業を展開しております。

滋賀県につきましては、皆さんもご存じのように機械の過剰県でございます。トラクターが全国で第 5 位、コンバインが第 1 位ぐらいだったというふうに思いますが、あるいは

それは逆かもしれません。そういう形で非常に滋賀県は機械の過剰県であるということですから、幸い愛東町は早くから構造改善事業を取り入れさせていただきましたおかげで、現在では各集落に営農組合が作られて、共同利用の機械がスムーズに運行しているということでございます。

ただ、最近ちょっと問題になっておりますのはオペレーター不足でございます。兼業農家にとって会社もかなりこのごろ厳しくなってきたとしまして、会社をとるか、農業をとるか、どっちだということでも会社から強く迫られているようでございます。農家の後継者も生活が大切でございますので会社を優先するということになりますと、なかなかオペレーターのなり手がいないということで、最近では営農組合も若干弱体化傾向にあります。町としても何とかそれを維持発展させていくための方策を考えているわけですが、なかなかうまく運ばないということで、大規模農家の育成なり、あるいは違った形の経営ができるような営農組合への転換を図るため、愛東町で推進大綱を作りながら、そちらの方向に誘導していくような対策を今考えているようなところでございます。

生活環境面におきましては、早くから農村総合整備モデル事業によって集落内の道路、あるいは排水路、そういったものを整備させていただきましたし、新農業構造改善事業によりまして、8 万平米の照明付きの運動公園やトレーニングセンター、それから農業者の健康を守るということで、健康管理センターの建設をさせていただきました。昭和 58 年から始めました集落排水事業も、平成 8 年度で愛東町全域をカバーできるようになっておりまして、下水道が完備することになります。先ほど隣の町に 4 万人の市があると言いましたけれども、その市よりも早く下水道が完備するというので、私の町では都市並みの快適な環境の中で生活がされていることになり

ます。先ほど若者が若干流出をしかけているということを申しあげましたけれども、そういう環境を整えることによって、若者の流出に歯どめをかけていきたいということを考えているところでございます。

お手元の前回の農業センサスと今回昨年の農業センサスの農家の比較をした表をみていただきますと、農家戸数は年々減ってきておりまして、5年ごとに大体50から100戸の単位で農家が減ってきているというような状況でございます。ただ、うれしいことに、よそと違ひまして、若干ではございますが、専業農家がふえてきております。

経営基盤強化法ができてから認定農業者も現在7名認定をしております、滋賀県で初めてスーパーL資金を借りた農家がございます。6000万円の資金を借りて、23ヘクタールの大規模農業に取り組んでおられます。農家は減っていますけれども、それはあくまでも農地の流動化を進めた中での減少であって、大規模農家がそれを引き継いだために若干ながら専業農家がふえてきている傾向にあるのではないかなと私たちは思っております。

それと農地面積も、前回に比べて若干は減っておりますけれども、愛東町は今まで工場誘致というのをほとんどしてきておりませんし、これからも恐らくないであろうと思っているわけです。田畑別に申し上げますと、1995年センサスの農地面積が、田が892ヘクタール、畑が41ヘクタール、樹園地が53ヘクタールということで、水田がほとんどであります。

粗生産額を見ていただきますと、20億円ぐらいの非常に情けない生産額でございます。わずか20億円ぐらいでございますけれども、愛東町ではこれが精一杯でございます。先ほど申しあげましたように、米が中心ということで米の粗生産額の割合が非常に高いということでございます。平成5年に比べて6年の米の粗生産額がふえているというのは、昨年、

転作が若干緩和されまして水稻の作付けがふえたことによるものですし、一方では麦がゼロということで、転作が緩和されたことによって麦がなくなったということでございます。野菜あるいは果樹が、若干ではございますが、ふえてきているというような状況でございます。

(3)「道の駅」を活用した農業活性化の背景

愛東町の概要を簡単にお話ししましたけれども、ここから本題の「道の駅 あいとうマーガレットステーション」を作ってきた背景等を中心にお話させていただきたいと思っております。

愛東町は、工場、企業をほとんど誘致せずに、農業を町の基幹産業として位置づけて、農業を主体にしたまちづくりをこれまで進めてまいりました。特に、特産品としては、転作の強化にあわせまして、施設園芸では、メロン、イチゴ、トマト、果樹では、ブドウ、ナシを振興しております。滋賀県については米の主産地ということで果樹がほとんどありません。愛東町の場合も、ブドウ、ナシの振興とは言っておりますけれども、実際は二十数ヘクタール足らずということで、大産地と言うまでにはいかないわけですが、滋賀県ではこれでも一番の産地でございます。非常においしいブドウやナシができるということで、京都市場では非常に人気が高い品目でございます。

それに加えて、昭和59年ごろから年間を通して周年栽培し、月ごとに収入が得られるような、多品目少量生産育成事業というのを地方の単独事業として取り組んできました。これはいろんな品目を少量でも作って消費者に提供しようということで進めてきた事業でございますけれども、おかげさまで、現在70から80品目の野菜類が栽培されてきております。ただ、多品目となるとわずかし

作りませんので、市場では優遇されないということで、非常に安い価格で取引されております。それに加えて、ここに農協の方もおられるので大変申しわけないんですけれども、農協の手数料なり、あるいは市場の手数料、市場へ出す運賃。そういうものを差し引きしますと、ほとんど農家には入ってこないというのが現状でございました。

これを何とか流通経費を下げた形で、農家の所得の向上が図れるような手だてをしたいということで、消費者に直接販売できるような拠点施設を作りたいという事情が一つございました。また、昭和 60 年ごろに私たちの町で地域振興研究会が組織されました。私もそのメンバーに入っておったわけですが、これからの愛東町の振興をどういうふうに進めていったらいいのか、農業を中心にしたまちづくりをどういうふうに進めていったらいいのかというプロジェクトを作ったわけでございます。その中で愛東町は自然に恵まれた、田園風景の非常にすばらしい町である。やはりそれを生かしていく必要がある。愛東町へいろんな方に来ていただいて愛東町を楽しんでもらう。そして、その田園風景を後世に引き継いでいくというようなことを考えていかなければならないということで、そういうものも含めて田園公園化構想というものを作り上げてきたわけでございます。その中に、都市と農村との交流なり、あるいは地場産物を直接消費者に販売できるような施設、そういうものを一体にした拠点施設づくりを進めていったらどうかということで、昭和 62、3 年ごろにそういう構想を作り上げてきたわけでございます。

たまたまその中で、平成 4 年度に建設省が全国に 5 カ所「道の駅」を作るという話が持ち上がってまいりました。その一つが滋賀県にきたわけでございます。滋賀県ではそれをどこに持っていくかということでいろいろ検討されたようです。

滋賀県にも無数の国道が走っておりまして、選定に困っておられたようですが、愛東町は先ほど申し上げましたように、そういう拠点施設を作りたいという意向が以前からあり県の農政課にいろいろとお話をさせていただいておりました関係がありましたし、「道の駅」が地域の活性化を目指しているということもありまして、ちょうど話が合致いたしましたので、その道の駅とあわせて、農業農村活性化農業構造改善事業（需要創造型）の指定を受けて、このステーションの建設を計画したわけでございます。「道の駅」につきましては平成 4 年と 5 年の継続事業で建設されまして、平成 6 年 5 月に供用開始したというようなことでございます。

(4)「あいとうマーガレットステーション」 の施設の概要

「道の駅」といいますと、皆さんもご存じかと思いますが、名神あるいは東名にパーキングエリアがありますように、そういうたまりの場を一般地方道にも持つてこようというものです。それを中心に地域の活性化を図っていったらどうかということで建設が計画されているわけでございます。

ただ、「道の駅」といいますと、トイレと休憩所と駐車スペースがあるだけで、そこで町が何かしたいということについては、やはり道路が敷地になりますので規制がかかります。ですから、それをフルに活用した中で、その周辺に何かを持ってきた方がいいということで、愛東町については構造改善事業を利用させていただきまして、この「道の駅 あいとうマーガレットステーション」を計画してきたということでございます。

たまたまバブルの崩壊期でもございまして、平成 5 年については国の方で景気対策が何回か打ち出されてました。その最終の第 3 次の経済対策を受けまして、おかげさまで早

く着工ができたというようなことでございます。その年の10月には敷地の造成をさせていただいて、平成6年1月にはメイン施設の農林漁業体験実習館、我々は田園生活館と呼んでいるわけですが、それと産地形成促進施設の農産物の直売館に着手いたしまして、平成7年5月20日に直売館が仮オープンし、また同年10月15日には田園生活館がそれぞれオープンしたというようなことでございます。テーマは、「新農村文化を創造する」と非常に難しいことになっているわけですが、特に都市との交流、体験、あるいは情報の収集、愛東町のイメージの発信、そういうことを新農村文化という形で発信していきたいなということで、この施設に取り組んでいるわけでございます。

施設の概要でございますが、平成5年から7年にかけて継続事業で建てましたのが農林漁業体験実習館と産地形成促進施設です。国道307号線がちょうど愛東町を通っておりますが、その一角に「道の駅」ができたわけでございます。これはトイレと休憩スペース、それから大型車が10台と普通乗用車が20台ほどとめられるようなスペースだけでございまして、一つの道路という位置づけになっています。例えばここで事故が起きますと交通事故扱いになるということでございますが、そういう施設ができました。これが大体3000平米でございます。

その周辺に構造改善の事業を取り入れまして作ったのが農林漁業体験実習館でございます。これは英国風の建物でございまして、皆さんのパンフレットにもおつけしておりますが、26メートルほどの塔屋部分がございまして、これが一つの特徴になっております。なぜこの愛東町にこんな西洋風の建物を作ったのかということでございますが、やはり農村のど真ん中に何かインパクトのあるものを建てたいなということと、後ほど説明させていただきますけれども、新しい農業を展開する

のに愛東町ではハーブを取り入れたいということで、ハーブというのはヨーロッパが原産でございますので、西洋風の建物にしたということでございます。

この体験実習館の中には、レストランとショップと工房と多目的の研修室があるわけですが、このレストランにつきましては、愛東町の農産物をフルに活用したメニューをお客様に提供するというところでございますし、ショップ、売店につきましては、女性に非常に人気がありますハーブ、ドライフラワー、そういうものを販売しております。それから、愛東を中心にした近隣の市町村の特産品を販売する物産ショップを配置いたしました。

このハーブなり、ポプリなり、ドライフラワーを使って体験してもらえるような工房も配置しております。最近の観光といいますと見る観光から、体験する観光の方に変わってきておりまして、そういうものに我々も目をつけまして体験を中心にした施設に変えつつあるところです。営業にいろいろ歩いてもらっていますけれども、バス会社の人に言わせますと、こういう体験できるものが今までになかった、非常にありがたい施設を作ってもらえたので利用させてもらいたいということで、今、何カ所かとの契約を済ませさせていただいて、4月の春先から夏にかけて、バスで60台ぐらいを誘致しようということで話が進んでおります。

このほか産地形成促進施設ということで、愛東町の農産物を販売する施設でございます。これの詳しいことは、また後ほど説明させていただきます。

来年、平成8年度には愛東町の農産物を使いました加工施設を、建設していきたいと考えています。愛東町は、ナシとか、ブドウとか、メロンという果実類がたくさんありますので、その果実類を使ったジュースなり、ジャム、シャーベット、ゼリー、それとハーブ

を使ったパン、クッキー、そういうものをこの加工施設の中で加工し、そしてショップの中、あるいは産地直売所の中で販売していきたいと考えているところでございます。

また、ふれあい広場ということで来ていただいた方に、ゆっくりくつろいでいただけるような芝生の広場を設けていきたいと考えておりまして、これが1万2000平米ですから、「道の駅」を含めて1万5000平米の敷地に、今回この「あいとうマーガレットステーション」を建設したというようなことでございます。

ただ、ドライフラワーとか、そういうものを室内で体験いただくということだけでは全体的な体験の場にはならないと思います。これからはやはり農村に来て、都会の方々にゆっくりと楽しんでもらえるような手だてを講じていかないと、ということもございまして、実は周辺の農地を活用いたしまして、もぎ取り農園、あるいは市民農園といった形のもの、それから、先ほどハーブというお話をさせてもらいましたが、ハーブの中ではラベンダーが王様でございますので、そういうラベンダー園をこしらえていきたいと考えております。実は農家の方に協力を依頼しまして、既に農地を借りまして、ラベンダーと、ポピーを今植えています。ここへおいでいただいた方に、花を見、また摘み取りながら体験をしていただく。また、周辺にはハウスを作り、イチゴなりトマトのもぎ取りをするということで、ここに来て一日ゆっくり楽しんでもらう、愛東町をゆっくり体験してもらおうということで、現在のところ、そういう形の取り組みを考えているところでございます。そして、農家の方には協力依頼をしている最中であるということでございます。

(5)「あいとうマーガレットステーション」の運営

この全体的なステーションの運営につきましては、土地を含めて全部の施設を町で整備したわけですが、管理につきましては第三セクターの財団法人愛の田園振興公社を組織しまして、そこが運営管理するという形をとっております。この財団につきましては、町が1億円、愛東町には小さい町でございますが、農協が二つございまして、その農協からそれぞれ1000万円ずつ、また商工会から500万円ということで、全体で1億2500万円を出資しています。このうち、町からの500万円、農協からの1000万円ずつ、それから商工会からの500万円、合計7500万円を基本財産として運営し、残りの5000万円につきましては、当座の運転資金ということでございます。なかなか一気に黒字転換とはならないと考えておりますので、その5000万円を当座は食べながら運営してもらおうということで考えております。

ただ、先ほど全体としてはこの愛の田園振興公社が運営管理するということでございましたが、レストランにつきましてはいろいろと問題もございまして、商工会に全面委託をさせていただいていますし、産地形成促進施設については農産物の販売ということから農協の方におまかせしています。本来は、生産から流通まではやはり農協の方の仕事だと常々思っておりますので、この直売所については農協の方で運営管理していただくということで動いていただいております。特に農協については町に2農協ございますので、本来一つですと、その農協が運営管理するのは非常にたやすいことですが、隣の町に本所があり、愛東町には支所しかない農協が一つございますので非常にやりにくい。もう一つの農協は、愛東町の半分のエリアを持っております、450戸ほどの組合員数の農協です。そ

れが滋賀県では有効の農協でして、営農面でも非常に熱心に行ってもらっておりますけれども、そういう二つの相反するような農協がありますので、運営管理をどちらに持っていくのかということで非常に悩まして、特別会員と一般会員という二つの会員を作りまして、それで運営協議会というのを作って現在運営してもらっているということです。

特別会員については、町と農協と振興公社と、それから町に農業指導センターという組織をつくっておりますが、その指導センターが特別会員になっており、また一般会員については、農家に会員を募って、なっております。これらの会員が全体的な運営協議会を構成するというので、現在会員数が150人ございまして、その協議会で直売館を運営してもらっているということでございます。

運営形態については、生産者がみずから値つけをする。そして、直接この直売館へ出荷し、振興公社の職員2名をここに派遣しておりますので、その2名が委託販売しているという形でございます。運営協議会には、農家から販売金額の10%を手数料という形で納めていただいているわけですが、その手数料のうち2%は農協に生産手数料という形で支払われますので、運営協議会は、実際には8%で運営をするということでございます。売れ残った商品については、その日のうちに生産者が持って帰るというシステムをとっているということで、今のところ、非常にうれしいような実績が上がってきております。

次に売り上げの状況ですが、あいとう直売館については7年5月20日に仮オープンしたということで、12月末現在で1億8600万円というようなことでございます。きのう、実は夜ですが、この「あいとうマーガレットステーション」の企画会議をやってまいりまして、1月の売り上げを見てまいりましたが、

冬にもかからわず260万円という売り上げをあげておりまして、合計で約1億9000万円ぐらいの売り上げとなっているということで、1年間を通すと大体2億円ぐらいの売り上げになるのではないかと予想をしております。我々のところではこの売り上げは非常に大したものだと思っておりまして、ここまでの売り上げをしているところは滋賀県には恐らくないということでございますし、今までにもなかったわけです。

ただ、「道の駅」のすぐ北側に実は空き地がありまして、この直売館ができるまでは農業指導センターが、ここへ仮設テントを建てて、昭和61年ごろからナシとブドウとメロンだけを販売しておりました。当時61年ごろには3000万円ぐらいの売り上げでしたが、そのうち人気が出てまいりまして6000万円になり、7000万円になり、9000万円になり、1億円になり、おとし、この直売館ができる前の年は1億4000万円という売り上げをあげてまいりました。そういう実績がございますので、これについては何とかいけるであろうという思いをしていたわけです。

そのブドウ、ナシ、メロンだけでも1億4000万円ぐらいは売れる。他方、野菜は年間を通して販売するというので、今まではナシ、ブドウ、メロンだけでございましたけれども、この直売館ができましてからは野菜類も、あるいは加工品もすべて年間を通して販売していこうということでやってきました。それで野菜の売り上げを600万円ぐらいだろうということで試算しておりましたが、意外なことに、600万円に対して4000万円の売り上げをあげてきたということで、我々作った者にとっては非常に喜ばしいことでありますし、農家の方々にも非常に喜んでいただきました。ことしの春の種がもう農協にないぐらいに飛ぶように売れている。我先にと作っていただいております、今までそんなことがないぐらいに普及所に技術的な指導なり、あ

るいは農協に種のあっせんなり、農協の指導員さんにも技術的な指導をどんどん申し込んでおられているような状況で、我々としても、作ってよかったなという思いが非常にしているわけでございます。

それとメイン施設の体験実習館、これは田園生活館といいますけれども、愛東町の新しい田園生活を提案していきたいということで、新農村文化の創造をテーマにここではやってきておりまして、10月15日にオープンしました。目標としては、当初6000人ぐらい来たらいいかなと思っていたんですけども、ふたをあけてみますと、オープンの当日は1万2000人の集客があったということで、我々はこれにもびっくりをしているというようなことでございまして、ちょうど10月、11月の観光シーズンと重なりまして、かなりのお客さんにおいでいただきました。12月23日には5万人を突破するというので、突破記念として、おいでいただいたお客様に記念品もお渡しし、非常に順調なスタートを切らせてもらいました。

顧客層については、女性を対象としたハーブを中心に組み込んでまいりましたので、30代から60代の女性の方、婦人層の方を中心においでいただいているということでございまして、売り上げにつきましても、今のところは2200万円ということでございます。ただ、この1月、2月、3月が勝負どきだなという感じです。昨日の企画会議では460万円の売り上げで、目標の500万円までいっていない状況でもあり、非常に厳しいなというところなんです。

また、平成8年度につきましては、加工所を作る計画をしておりまして「こだわりの一品」ということで、フルーツなり、あるいはハーブを使って愛東町にしかないものを作り、今後の売り上げの向上に努めていきたいと考えています。

(6) 今後の展開

今後の展開ということでございますが、この「あいとうマーガレットステーション」につきましては、知るとか、くつろぐとか、食する、ショッピングする、体験する、観るという要素を持たせた複合施設ということで建設しまして、都市と農村との交流という面を強く打ち出しております。また「道の駅」という機能を十分発揮できるような情報の発信基地であるということを我々は念頭に置いておりますので、この施設を中核としながら、将来的には体験部門の拡充なり、あるいはグリーンツーリズムのような宿泊、長期滞在も兼ねた例えばクラインガルテン（農園つきコテージ）なんかを作っていくような形に持っていきたいなということで、夢が広がっているところでございます。

ただ、問題は、経営的に非常に苦しいという点でございます。それと、小学校が愛東町には二つありますが、それが2校とも老朽化しまして、今、建設をしているところで、1校は13億円かけて既に完了しました。今年また13億円で次の小学校を建てるということで、学校を建てるについては住民は納得するわけでございますが、なぜ役場が施設を建てて商売をするのかということで、なかなか住民全員に賛成をしていただけないのが実態でございまして、議員さんの中にもそういう面では反対派もあります。非常に難しいのは、これはあくまでも独立採算制でいけということで、一切委託金なり補助金はもらわずに、財団法人愛の田園振興公社が独立採算制で動いているというところでございます。ですから、今ここで損益分岐点を考えますと1億4000万円ぐらいになるかなということで考えているわけですが、それに到達するには非常に厳しさがあります。今2200万円しか売り上げがありませんので、1億4000

万円の損益分岐点まで上げていくとしますと、並大抵の努力ではいけない。わずか 50 坪ほどの売り場面積しかありません。レストランは商工会に委託、また直売館は農協への委託ですから、おいしいところは皆とられてしまっているというのが実態でございますので、50 坪の中で 1 億 4000 万円の売り上げをあげてこうとすると非常に厳しい面が出てくるということで、それが心配している点でございます。

ただ、財団法人だけには任せておかずに、我々は作った側でございますので、できるだけ側面からでも応援するという形をとっております。先ほど申し上げましたように、ラベンダー園なり、あるいはポピー園も、実は昨年の 11 月に私と課長が田をすいて種をまいてということで、金銭面では応援できませんけれども、体で応援するという形で、せっかく作った施設でございますので、何とか順調

に運営していけるよう我々も一生懸命やっているとというのが実態でございます。

わかりにくい説明でしたが、また後で質問がありましたときに、いろいろとお話をさせていただきたいと思います。(拍手)

座長 どうもありがとうございました。

滋賀県といいますか、近江の地は、昔から交通の要所でありまして、そのせいで近江商人なりが生まれたかと思うんですが、まさしくこの立地を生かし、なおかつ補助事業をうまく使って、それに農業振興をうまく加えているというような地域活性化の一つのモデル的なものかと思います。

用語等の質問に限り承りますが、ございませんか。それでは、第 2 報告に移らせていただきたいと思います。

第 2 報告として、長野県北御牧村の武井さん、よろしく願いいたします。